

「室内装飾の巨匠 1: ベイリー・スコット」(AN.3777-1/(3))

英国はロンドンのパター・パワー・ステーションの煙突の意匠で随分と有名になったベイリー・スコット(1865-1945)であり、19世紀英国家具史ではその伝統的な家具に圧倒されて、他の影を薄くしてしまっている。室内装飾作品は殆ど残さなかったに等しいが、実は刊行物場で多くの図版が馴染み深いものとなっていた。1894~1902年に刊行された「ステューディオ」誌には家具並びに室内装飾作品が10件の図版しか採り上げられなかったが、掲載図版の中に色刷りによる4葉が含まれてもいた。ベイリー・スコットは実際天賦の色彩感覚に恵まれ、ヴィクトリア朝期デザイナーの数少ない一人であった。少なくとも紙の上で色彩を展開する能力、それも極めて微妙な色彩間の調整に長けていた。建築家多しと雖も、こういった天与の才の持ち主は常に稀である。

1900年12月号のドイツの「室内装飾 Innendekoration」誌に広告された公開設計競技「藝術愛好家の為の住宅Das Haus eines Kunst-Freundes」の公募にベイリー・スコットは「ドゥルチェ・ドムム Dulce Domum[甘美な住宅の意]」案で以て応じた。設計競技の目的は「独逸の[現代]藝術と室内装飾Deutsche Kunst und Dekoration」誌が数年前から打ち出していた「新しい藝術」を奨励するプログラムの更なる実効的履行であった。公開設計競技の締め切りは翌年3月25日とされ、5月16、17の両日に36案がダルムシュタットで審査にかけられた。審査はJ.M. オルブリヒ、アレキサンダー・コッホ、ハンス・クリスチアンセン等8名が当たった。36案のどれ一つとしてコンペの条件を満たしていないというのが審査員の一致した見解であった。コンペの条件とは「近代[若しくは現代]建築が直面している重要な諸問題の解決に力強く貢献すること」であり、「…我々が骨を折って求め、而も期待したような成果を手中に収めることが出来なかった」が、「室内の扱いは巨匠の作に値するが、それに対立するような精神で以て、更に現代的な精神で

以て、彼の計画した住宅の外観を処理していないとしても、ベイリー・スコット案が一等を勝ち得たとして良いであろう」と、審査報告書は聊か曖昧な表明を出した。それで一等賞金8000マルクを受け取る該当者はなし、但しその額は16案以上に対して分割授与することとなり、ベイリー・スコット案に対しては最高賞金、即ち1800マルクが与えられることになった。三等賞はレオポルド・パウアーとオスカー・マルモレク、というウィーンの建築家とコブレンツの建築家パウル・ツェロッホの3名に贈られた。審査員を喜ばせたのは、コンペ参加資格を実質的に無くしていたにも拘わらず、

「鳥Der Vogel」と題するマキントッシュ案であった。審査員の計らいで買上賞に輝き、600マルクが与えられたのである。加えてベイリー・スコット案、マキントッシュ案そしてレオポルド・パウアー案は1902年に「室内装飾の巨匠Meister der Innenkunst」と題する大判の帙本として1902年に刊行される名誉を得ることにもなった(「美術工藝資料館蔵品研究50」、1999年1月発行「京都工芸繊維大学広報誌「学園便り」89号参照)。

帙本に収められたテキストでヘルマン・ムテジウスは熱い賛辞で以て、「藝術愛好家の為の住宅」を解説している。多少長いがテキスト冒頭を引用する:「そこに住むべき家を夢見る藝術愛好家というのは、著者の思いの中では、その名称に相応しい固有の資格が絵画や彫像に対する知識に起因し、且つその人物の藝術的

佇まいの表現、詰まり藝術対象としての…住宅を夢想する者である。斯く在りたいと願う藝術愛好家、は問題の根本から問われるのである。家の中に何らかの藝術的対象があってはならない。…英国人建築家M.H.ベイリー・スコットの計画案は以上述べたような住宅藝術に就ての正に好例であって、世界に広められても良い程の作品である。更にベイリー・スコット氏は珍しい位に素朴にして無尽の詩的な力を持った藝術家である。…スコットの室内空間に秘められている魅力は、優雅さ、世間人的な老練さに由来

するものではない。それは人間の深奥に潜む琴線に響くものである。魅力ある住宅とは世間の激動の前での、安寧で詩的な隠れ場所、不安から解かれて心地よく親しげな隠れ家の相貌を具え、…自らの流儀で生命を生きる為のものである。懼らくそれらは茲に示したベイリー・スコットの住宅での最も顕著な特性の一部である。詰まり住宅の内部全体に較べて、外部を殆ど重要視していないかのように見える事を指している。加えて我々は茲に実際の処現代英国住宅に共通した固有性を目の当たりにすることになり、その住宅の外回りの珍しい程の慎重さ、欧州大陸に住む者にとっては殆ど無趣味・無関心にさえ見えるような、単なる解放された立面にそれが表れている…」と、こんな具合である。「独逸の[現代]藝術と室内装飾」「装飾芸術Dekorative」「室内装飾」「仏蘭西語版[現代]藝術と室内装飾 Art et Décoration」、「仏蘭西語版装飾藝術L' Art décoratif」、そして老舗の「ステューディオ」といった雑誌に掲載されていた住宅実例は、デザイナーに依頼して多額の経費を要して実現したもので

あって、生活の様式化が藝術に取って代わっていく時代が始まりかけていた頃の風潮であった。そしてアドルフ・ロースが「哀れな金持ちを巡って」で展開する批判の矛先とされたものでもあった。このような藝術にとって変わった室内装飾様式の中にこそ「婦人室」は、女性の自由と権利を象徴するものとして設けられ、飾られ、女性達に大いに享受され、それをスコット案は受容する。音楽室に就ても正しく「藝術愛好家の住宅」に相応しい内的機能であり、六角形を象る大広間は現代に生きる家族の理想的な住空間の典型であるともムテジウスは熱く叙す。

この時代の特に中産階級若しくは成金階級の子弟が成人した時に望んでいた住宅の姿に旨く合致していたのが、ベイリー・スコット案であった。詰まり「お金」という柵に囚われない「自由」、それらに加え藝術を所持している事の「優越感」を支持したのがベイリー・スコット案であると言外に

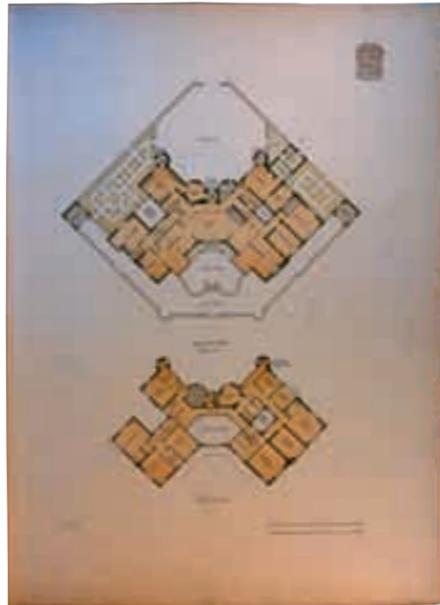
表明しているからである。その藝術とは嘗て憧れた様式主義の匂いを仄かに留め、詰まり装飾的要素が住居の内部、外部を問わず隅々にきちんと残されているものであった。従って今から振り返ってみると、その時代を通じて確実に名を残した英国に於けるアール・ヌヴォの主導者と呼ばれた建築家マキントッシュよりも、この1902年時点では英国に大陸の要素を持ち込み、優越感と自由を与えたベイリー・スコットが首尾良く人々の、もっと言えば審査員を含め、テキストを作成したムテジウスの心を掴んだのだと思われる。

ベイリー・スコット案は「解放的な広がりのある居住空間という、全く新しい大陸的な見解」であるとムテジウスが評価した。少なくとも「英国の住宅建築」を書くために実例を渉猟していた駐英プロシヤ大使館付文化参事官としての、帰国後の書物を上梓し、加えて多くの賛同者と共に「ドイツ工作連盟」の設立に漕ぎ着けたムテジウスにはそのように見えたのであろう。であればこそ、1907-8年、ベルリンの西郊外ニコラスゼーのポツダマー・ショセー48番にフロイデンベルグ邸Haus Freudenbergを、建築的な構成とその形義的同様性で以て実現して、「ドゥルチェ・ドムム」への會て覚えた熱い思いを果たしたと言い得るのである。

○

Tafel I a) Erdgeschoss, b) Ober-Geschoss, Grundriss des Gebäudes, mehrfarbig. ●II a) Nord- b) Ost-Ansicht des Gebäudes, perspekt Ansicht mehrfarbig. ●III a) Süd- b) West-Ansicht des Gebäudes, perspekt Ansicht mehrfarbig. ●IV Perspekt. Gesamt-Ansicht des Gebäudes von Norden gesehen, mehrfarbig. ●V Perspekt. Gesamt-Ansicht des Gebäudes von Süden gesehen, mehrfarbig. ●VI Die grosse Halle, perspekt. Gesamt-Ansicht, reich koloriert. ●VII Der Speisesaal, perspekt. Gesamt-Ansicht, reich koloriert. ●VIII a) Der Spiel-Raum der Kinder, b) Das Studier-Zimmer des Herrn, persp. Ansicht, mehrfarbig. ●IX Der Musik-Raum mit Blick auf die Bühne, perspekt. Ansicht, reich koloriert. ●X a) Das Schlaf-Zimmer der Eltern, b) Das Bade-Zimmer, c) Das Zimmer der Dame, perspekt. Gesamt-Ansicht, reich koloriert.

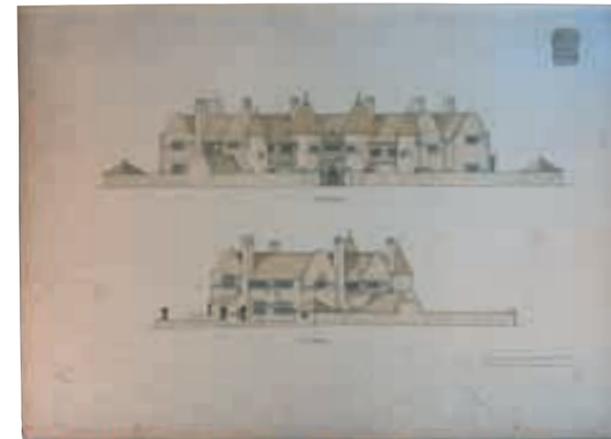
(美術工藝資料館教授・館長 竹内次男;技術補佐員 亀野晶子, 2008.2.27)



Tafel I



Tafel I (部分)



Tafel II